

牧野百男

鯖江市長

Hyakuo Makino

まきの・ひやくお 昭和16年11月18日生まれ。78歳。鯖江高卒。福井県嶺南振興局長、県民生活部長、県総務部長を歴任。平成13年4月小浜市副市長に就任。平成15年4月県議会議員に当選。平成16年10月鯖江市長に初当選。現在4期目。石田上町。

高い志と強い意思をもって 全国に先駆けたまちづくり挑戦

突然の引退に惜しむ声しきり！



現在4期目の牧野百男鯖江市長が6月の定例会議で、10月16日に任期満了を迎える鯖江市長選に出馬から一転、不出馬の意向を明らかにした。鯖江市長は県議1期目途中に辞職し2004年の市長選で初当選。08年に再選し、12、16年は連続で無投票当選だった。昨年12月の定例会では「残りの任期期間を全力で全うすることが責務で

あると考えている」と述べるにとどめていたが、今年に入り新型コロナウイルスが世界的大流行を引き起こし、国や県が緊急事態宣言を発令。自治体はコロナ感染症対策や市民の生活支援、経済支援など対応に追われる中、鯖江市民の生命と財産を守る首長としてこの緊急時に退くわけにはいかない。ふるさと鯖江とそこに住む人々を愛する牧

野市長の強い責任感と使命感が再選出馬を決意させ6月の市会で正式表明したが、「年齢」を理由に立候補を断念。何らかの圧力に屈したのか、

鯖江市の魅力を国内外に発信

牧野市長は2004年の初当選以来、「みんなできつろう、みんなのさばえ」を合言葉に、全力で鯖江市政に取り組んできた。まちづくりにおいては全国的にも珍しい「市民主役条例」を制定し、市民が主役のまちづくりを推進し、鯖江市役所JK課など若者や女性が活躍するまちづくりにつなげ、「鯖江ブランドの創造」「人の増えるまちづくり」を重点施策として取り組み、「鯖江から国を変える」という高い志をもってオーブンデータや地方創生のトップランナーとして取り組んできた結果、「鯖江」の認知度が高まり、全国でも注目される都市になる。

正式出馬表明から1カ月も経たずに突然の引退表明に支持者の驚きは大きく、「もう1期頑張つてほしかった」と惜しむ声は尽きない。

地方の人口減少に歯止めがかからない中、県内で唯一人口が増え続け、2019年1



JK課が日本経営協会の協働まちづくり表彰でグランプリを受賞。卒業メンバーたちによる「鯖江市JKOG課」が発足。

月1日時点の人口は2年連続で前年を上回り、1955年の市制施行以来最多を記録する。しかし、牧野市長は決して楽観できる状況ではないと、少子高齢化や地域経済の低迷に対応するため他の自治体との差別化に向けた、まちの『顔』と『個性』を生かした特色あるまちづくりに全力で取り組む。

まちの「顔」となる眼鏡産業をはじめ、繊維や漆器などのものづくり産業に加え、素晴らしい伝統や歴史、文化、自然など個性ある地域資源をさらに掘り起こし、世界に誇れる地域ブランド「めがねのまちさばえ」を前面に打ち出し、市の魅力を国内外に情報発信。また、世界的な取り組みである「持続可能な開発目標(SDGs)」の理念に賛同し、地場産業の振興を基本に女性活躍や環境、健康福祉分野を中心とした持続可能な地域社会の構築を市民と共に取



鯖江市地域活性化プランコンテスト

り組み、昨年、この取り組み提案が「SDGs未来都市」に選定され、ジェンダー平等の実現に向けた活動が「自治体SDGsモデル事業」にも選ばれ、安倍首相から代表授与される。12月にはチャウドリー国連永久大使が来鯖し、SDGs女性資料館(仮称)の設立や国際女性会議の誘致に向け力強いエールも受ける。本市のSDGsの目標5(ジェンダー平等の実現)の取り組みは「世界的な視野で考

え、地域で行動する」小さな
 地方都市のロールモデルとし
 て積極的に取り組み、全国に
 鯖江モデルを発信することに
 より、市民のより一層の郷土
 愛を育み、地域活性化につな

市政の根幹にある深い「人間愛」

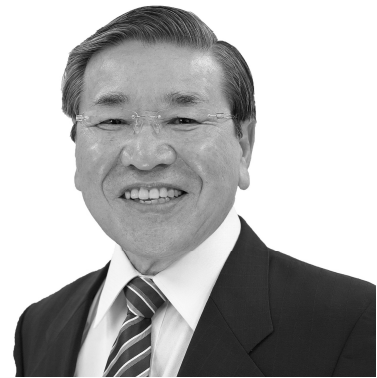
がっていく。2017年の台
 風21号の影響で川去町地系を
 流れる神通川の右岸堤防が破
 堤、床下浸水や道路冠水、農
 作物被害などが発生したため
 治水対策も全力を尽くす。

鯖江市は昭和、平成、令和
 と時代を刻み、本年、市制施
 行65周年を迎える。この記念
 すべき年に未来を見据えた各
 種計画の見直しを行った。「第
 2期鯖江市まち・ひと・しごと
 と創生総合戦略」では、「世界
 のめがねの聖地SABAE」
 をコンセプトに、重点施策「S
 DGsの推進」のもとに、「女
 性が活躍しやすいまちづく
 り」「強靱かつ環境にやさしい
 まちづくり」「Society
 5・0の実現」を加え、各施
 策に新たな方向性を明示。同
 じく、「第5次鯖江市男女共同
 参画プラン・女性活躍推進計
 画」「第2期鯖江市子ども・子



チャウドリー国連永久大使来鯖

育て支援事業計画」も策定。
 牧野市長は『市民が住んでい
 て良かった、これからも住み
 続けたい、そして、若者が戻
 りたい、働きたいと思っても



らえるようなまちづくり』に
 力を入れ、平成の大合併で単
 独を選択した「鯖江」を市民
 とともに盛り上げてきた。

来年間催となった東京オリ
 ンピック・パラリンピック、
 3年後には北陸新幹線が敦賀
 駅まで延伸し、冠山峠道路も
 開通。2025年には大阪・
 関西万博が開催されるなど、
 本市にとって大きなチャンス
 の時を迎える。この機会を逃
 すことのないよう「世界のめ
 がねの聖地SABAE」を世
 界に発信していかねければな
 らない。この重要な時期にコ
 ロナの影響を最小限に止める
 ことが最大の使命であると、

就任時に1億9千万円だった
 財政調整基金を約33億円まで
 積み増した財源を法人事業主
 10万円、個人事業主5万円、
 子ども手当1人2万円、水道
 基本料金6カ月免除などコロ
 ナ対策費に充てた。豊富な経
 験と見識、広域的視野をもつ
 て何事にもスピード感ある牧
 野市政に市民の信頼は厚い。

一貫して「地方から国を変
 える」という高い志と強い意
 思をもって、全国に先駆けた
 まちづくりに挑戦してきた牧
 野市長は、武田信玄のことば
 「人は城、人は石垣、人は堀」
 を肝に銘じ、「愛情」「真実」「実
 行」を政治理念とする。その
 根幹には「人間愛」がある。
 常に初心にかえり現場百篇
 の教えを守り、市民の目線、
 生活者の視点に立って市民の
 信頼に应运ってきた牧野市長は、
 この難局を市民と一丸となつ
 て乗り越えたいと決意しただ
 けに、今回の不出馬は苦渋の
 決断であつたに違いない。